



令和7年度 富山市立水橋西部小学校

天瀬っ子

学校だより7月号



自然と共に生きる子供

情報主任・2年担任 堀田 大貴

夏の訪れを予感させるような厳しい暑さが続いています。大人も子供も身体がなかなか慣れず、体調を崩しやすい時期ですが、校庭の花壇や畑では、花々や野菜が元気いっぱいに青々と育っています。

本校では、各学年で栽培活動に取り組んでいます。1年生はアサガオ、2年生は野菜、3年生はヒマワリ・ホウセンカ・オクラ・ピーマン、4年生はヘチマ、5年生は大豆、6年生はじゃがいも、支援級では様々な野菜を育てています。高学年は、委員会活動の一環として、学校のシンボルである松の木の周りに花を並べて美しく彩ったり、畑でさつまいもを栽培したりする活動に取り組んでいます。こうした日々の活動を通して、子供たちは自然を感じるようになってきました。

先日、2年生が地域の「町たんけん」に出かけた際には、まちの中にたくさんの花が育てられていることに気付いた子供が多くいました。「とてもきれいだった」「誰が育てているんだろう」と花の美しさや育てる人が気になる姿から、子供たち自身が植物を育てているからこそ、身の回りの自然に目が向くようになっているのだと感じました。

日本人は昔から、自然の中に神が宿ると考え、自然に敬意をもって暮らしてきました。同時に、自然は人の手ではどうすることもできない存在として、畏れを抱いてきた文化もあります。子供たちが自然と関わる中で、命の力強さや、人の力はどうにもできないことの存在を知ることは、大きな学びにつながります。

今、「VUCA」と呼ばれる将来の予測が困難な時代にあります。自分の思うように解決できないことも増えるでしょう。だからこそ、こうした時代を生きる子どもたちには、知識や情報を活用する力はもちろんのこと、人と関わりながらしなやかに生きていく姿勢や、柔軟な心の在り方が求められると思います。自然と共に生きる中で、すべてを思い通りにしようとするのではなく、「自分に何ができるか」「できることを自分で決めて関わっていく」そんな柔軟な心を育てていきたいと思います。地域の皆さんには、今後とも本校の教育活動にご理解とご協力をいただけますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



花を植える自然委員会の子供



暑い日も雨の日も、自分の野菜を見つめる2年生の子供